

---

# 落っこちてきた剣アーチャーさんの話

naka

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

落つこちてきた剣アーチャーさんの話

### 【Zマーク】

Z0927Y

### 【作者名】

naka

### 【あらすじ】

TOAとFATEの無茶なクロスオーバーです。アビスの世界に  
残念な感じでアーチャーさんを突っ込んでみました。続きません。

(前書き)

「アーチャーファンの血様！」みんなやー。

それは深淵に一振りの剣が降り立つた日。

その日の夕暮れは空を赤く染める太陽がよく見えて、渡り鳥が虹色に染まつた雲をぐぐりぬけ、すでに姿は遙か遠く空は赤く赤く染まつていた。

そこには屋敷の裏庭で一番目立たず人通りの少ない場所で、ルークはそこにある一番背の高い木に登つて何をするでもなくぼんやりとしていた。

遠くから何か声が聞こえた気がして後ろを見たら、何かが髪をかすつて落つこちていった。

驚いて危うく木の枝から落ちそうになり、あわてて体勢を立て直して下を見ると一振りの剣が庭に突き刺さっていた。

「どうからともなく「身体は剣でできている」と繰り返しつぶやいているのが聞こえて、「とうとう頭があかしくなっちゃったのかなー」とつぶやいた。

それはとても不思議な剣で、「召喚したのは君か」とか「どうしてこんな姿で」とか「幸運に恵まれなさ過ぎる」などよくわからないうことをベラベラ喋つて、ルークを困惑させた。

それでもルークの境遇を話せば、「この通り手も足も無いが、話し相手ぐらいにはなるつ」と気持ちよく承諾してくれた。

不思議なことにどんなに力をこめても、剣を土の中から引き抜くことができなかつた。それでも話すことには問題は無く、毎日のようになつて、そこでいろいろな話をしていた。もっと不思議なことは、その

剣をルーク以外見ることができないようして誰も彼も無いものとしてスルーしているのだった。

ルークの方もその剣の話をしようとしても何故か言葉にすることができず、結局ルーク一人の秘密として胸にしまうしかなかった。

それから何年もたつて、その剣は退屈な日々を送るルークにとつては無くてはならないものになっていた。

その日も、いろいろな話をしていたがルークの剣の師匠が来たということでそこを離れてしばらく経ったとき、聞き覚えの無い歌が聞こえてきた。

そのあとしばらくルークが現れるることは無かつた。

屋敷内での騒ぎからルークがどこかへ行ってしまったということはわかつたが、剣はそれこそ手も足も出ずそこに突き刺さっているしかなかつた。

それから幾重もの朝と夜が過ぎて、ルークが帰ってきた。

鮮烈な赤のイメージを纏う懐かしい女性を伴つて。

その女性、凜はその剣を見て「あーはは、アーチャーが剣！あはは」「剣できてるどころか剣！」「なにそれおなかが揃れそう！」などと指差して笑つてたが、そこは優秀な魔術師であるからあつさりと封印を解いてしまつた。

なんで剣の状態なのかはわからなかつたが、なんだかんだでルークの旅に付き合うことになつた。

そしてアクゼリュスにて、ルークが尊敬する師匠の姦計にかかって、その内に秘める力で一つの街を滅ぼそうとしたその瞬間。

「

問おう。君が私のマスターか。」

白い髪と浅黒い肌の赤い外套を羽織った騎士がそこに降臨した。

それから先は蛇足な話。

正義の味方が現れたあとは平和になるのを待つばかり。  
それはきっとハッピーエンド。

## (後書き)

今、考えていたクロスのプロトタイプです。  
どう考へても続かないでお蔵入りしたものですが、もつたいない  
ので短編という形で発表させていただきました。

このあとはアーチャーの無双と凜の魔術（ぬむうつかり）でビックリ  
かなると思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0927y/>

---

落っこちてきた剣アーチャーさんの話

2011年11月13日07時31分発行